

## 進化する個性派化学

---

# 昭和電工株式会社

## 2018年第3四半期 決算説明資料

2018年11月8日決算発表

取締役 執行役員 CFO  
加藤 俊晴

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極等製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

## 連結対象会社

■ 連結子会社：60社

前期末対比：△2社

包頭昭和稀土高科新材料有限公司(エレクトロニクスセグメント、清算)  
ビー・インターナショナル(株)(その他セグメント、昭光通商による吸収合併)

6月末対比：△1社

ビー・インターナショナル(株)

■ 持分法適用会社：12社

前期末対比、6月末対比：+1社

SK昭和電工(株)(化学品セグメント)

## 主要諸元

(期中平均)

	2017年		2018年		増減	
	1-9月	7-9月	1-9月	7-9月	1-9月	7-9月
■ 為替レート (円/US\$)	111.9	111.0	109.6	111.5	2.3円高	0.4円安
(円/€)	124.6	130.4	131.0	129.6	6.4円安	0.8円高
■ 国産ナフサ (円/KL)	39,050	36,100	50,050	53,500	11,000	17,400
■ アルミ地金						
LME (US\$/T)	1,933	2,027	2,163	2,067	230	40
国内市況 (千円/T)	271	279	296	289	25	10

(国内市況価格は日本経済新聞掲載値)

※2017年12月期末レート113.0円 2018年9月期末レート113.6円 ⇒ 0.6円円安

# 連結業績の概要

2017年1-9月 対 2018年1-9月

(億円)

	2017年1-9月	2018年1-9月	増減
売上高	5,638	7,249	1,611
営業利益	559	1,345	786
営業外損益	△136	△3	133
金融収支	△10	△7	3
持分法投資損益	△85	10	94
為替差損益	△28	2	31
その他	△13	△8	5
経常利益	424	1,342	918
特別利益	4	5	2
特別損失	△98	△31	68
税金等調整前四半期純利益	329	1,317	987
法人税等	△79	△279	△200
四半期純利益	251	1,037	787
非支配株主に帰属する四半期純利益	△16	△45	△29
親会社株主に帰属する四半期純利益	234	993	758

## 特別損益の内訳

(億円)

	2017年1-9月	2018年1-9月	増減
<b>■特別利益</b>	4	5	2
●投資有価証券売却益	2	3	0
●子会社清算益	—	2	2
●その他	1	1	△0
<b>■特別損失</b>	△98	△31	68
●固定資産除売却損	△16	△24	△8
●債務保証損失引当金繰入額	△31	—	31
●その他	△52	△7	45
<b>■特別損益</b>	△94	△25	69

## 連結売上高差異内訳(1-9月累計対比)

(億円)

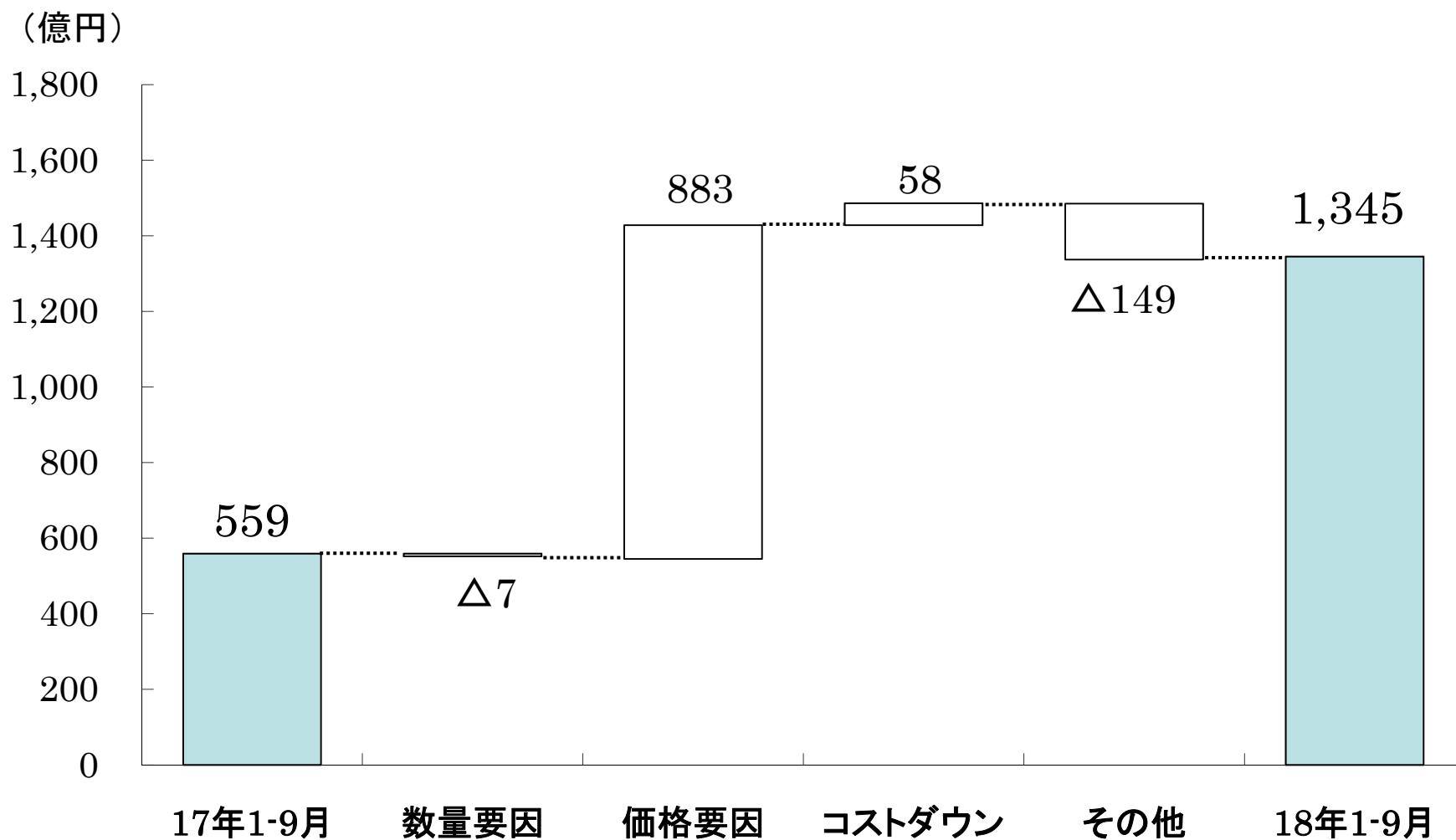
	2017年 1-9月	2018年 1-9月	増減	項目
石油化学	1,832	1,916	85	オレフィン:前年同期並み(大型定修による数量減、市況上昇) 有機:増収(酢ビ、酢エチ:市況上昇) サンアロマー:増収(市況上昇)
化学品	1,085	1,151	66	基礎化学品:増収(AN・苛性ソーダ:市況上昇、 クロロプレンゴム:小幅増収) 情報電子化学品:増収(電子材料用高純度ガス:数量増) 産業ガス・機能性化学品:小幅増収
エレクトロ ニクス	953	814	△138	HD:減収(PC向け数量減) 化合物半導体・レアアース:増収(数量増) リチウムイオン電池材料:増収(数量増)
無機	426	1,922	1,496	セラミックス:減収(アルミナ数量減) 電極:大幅増収(市況上昇) 昭和電工カーボン・ホールディング連結子会社化(2017年4Q)
アルミニウム	773	811	38	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔:数量増) 機能部材:増収(地金高に伴う価格上昇) アルミ缶:小幅減収
その他	981	1,056	75	昭光通商:増収 SiCエピウエハー:増収(数量増)
調整額	△411	△420	△9	
合計	5,638	7,249	1,611	

## 連結営業利益差異内訳(1-9月累計対比)

(億円)

	2017年 1-9月	2018年 1-9月	増減	項目
石油化学	241	155	△86	オレフィン:減益(大型定修による数量減、C4留分) 有機:小幅減益 サンアロマー:減益(原料高による販売価格上昇のタイムラグ)
化学品	113	126	13	基礎化学品:増益(AN・クロロプレンゴム・苛性ソーダ) 情報電子化学品・産業ガス:増益(数量増) 機能性化学品:減益(原料高による販売価格上昇のタイムラグ)
エレクトロ ニクス	184	101	△83	HD:減益(PC向け数量減) 化合物半導体・レアアース:小幅増益 リチウムイオン電池材料:増益(数量増)
無機	24	979	955	セラミックス:増益(電子材料向け数量増) 電極:大幅増益(市況上昇) 昭和電工カーボン・ホールディング連結子会社化(2017年4Q)
アルミニウム	48	40	△8	圧延品:小幅増益 機能部材:小幅減益 アルミ缶:減益(国内数量減)
その他	4	21	17	昭光通商:増益 SiCエピウェハー:増益(数量増)
調整額	△56	△77	△21	
合計	559	1,345	786	

# 連結営業利益差異内訳



## 連結業績の概要(7-9月対比)

(億円)

	2017年7-9月	2018年7-9月	増減
売上高	1,916	2,691	775
営業利益	209	566	357
営業外損益	△8	△0	8
金融収支	△4	△3	1
持分法投資損益	3	4	1
為替差損益	1	7	6
その他	△7	△8	△1
経常利益	201	566	365
特別利益	1	0	△1
特別損失	△2	△11	△9
税金等調整前四半期純利益	201	556	355
法人税等	△37	△127	△90
四半期純利益	164	429	265
非支配株主に帰属する四半期純利益	△8	△16	△8
親会社株主に帰属する四半期純利益	156	413	257



## 連結売上高差異内訳(7-9月対比)

(億円)

	2017年 7-9月	2018年 7-9月	増減	項目
石油化学	592	762	170	オレフィン:増収(ナフサ高に伴う市況上昇) 有機:増収(酢ビ・酢エチ:市況上昇、NPAC:数量増) サンアロマー:増収(市況上昇)
化学品	384	405	20	基礎化学品:増収(AN:市況上昇、クロロプレングム:数量増) 情報電子化学品:増収(電子材料用高純度ガス:数量増) 産業ガス・機能性化学品:小幅増収
エレクトロ ニクス	323	271	△52	HD:減収(PC向け数量減) 化合物半導体:増収(数量増)、レアアース:減収(数量減) リチウムイオン電池材料:増収(数量増)
無機	160	757	597	セラミックス:減収(アルミナ数量減) 電極:大幅増収(市況上昇) 昭和電工カーボン・ホールディング連結子会社化(2017年4Q)
アルミニウム	264	278	14	圧延品:増収(数量増) 機能部材、アルミ缶:小幅増収
その他	330	360	29	昭光通商:増収 SiCエピウェハー:増収(数量増)
調整額	△138	△141	△3	
合計	1,916	2,691	775	

## 連結営業利益差異内訳(7-9月対比)

(億円)

	2017年 7-9月	2018年 7-9月	増減	項目
石油化学	79	81	1	オレフィン:小幅増益 有機:増益(酢ビ・酢エチ:市況上昇) サンアロマー:減益(原料高による販売価格上昇のタイムラグ)
化学品	44	49	4	基礎化学品・機能性化学品:小幅増益 情報電子化学品・産業ガス:増益(数量増)
エレクトロ ニクス	63	45	△18	HD:減益(PC向け数量減) 化合物半導体:小幅減益、レアアース:前年同期並み リチウムイオン電池材料:小幅増益
無機	23	398	375	セラミックス:増益(電子材料向け数量増) 電極:大幅増益(市況上昇) 昭和電工カーボン・ホールディング連結子会社化(2017年4Q)
アルミニウム	16	14	△2	圧延品:小幅増益 機能部材:減益(ショウティック) アルミ缶:小幅減益
その他	4	8	4	昭光通商:前年同期並み SiCエピウエハー:増益(数量増)
調整額	△20	△27	△7	
合計	209	566	357	

# 連結貸借対照表

(億円)

資産	2017年 12月末	2018年 9月末	増減	負債・純資産	2017年 12月末	2018年 9月末	増減
現預金	772	1,382	610	営業債務	1,208	1,481	273
営業債権	1,760	2,136	376	有利子負債	3,467	3,309	△159
たな卸資産	1,149	1,489	340	退職給付に係る負債	190	159	△31
その他	390	372	△18	その他	1,716	1,722	6
<u>流動資産計</u>	4,072	5,379	1,307	<u>負債計</u>	6,580	6,670	90
建物・構築物	859	846	△13	資本金	1,406	1,406	0
機械装置・運搬具	1,516	1,549	33	資本剰余金	617	789	172
土地	2,447	2,449	2	利益剰余金	1,001	1,892	892
その他有形固定資産	237	186	△50	自己株式	△105	△17	88
<u>有形固定資産計</u>	5,059	5,030	△30	<u>株主資本計</u>	2,918	4,071	1,153
無形固定資産	128	143	14	その他有価証券評価差額金	165	135	△30
投資その他の資産	1,011	938	△72	繰延ヘッジ損益	38	18	△20
(内、投資有価証券)	892	833	△59	土地再評価差額金	295	295	△0
				為替換算調整勘定	155	146	△9
				退職給付に係る調整累計額	△47	△36	11
				<u>その他の包括利益累計額計</u>	607	558	△48
				非支配株主持分	165	190	25
<u>固定資産計</u>	6,198	6,111	△87	<u>純資産計</u>	3,690	4,819	1,130
<b>資産合計</b>	<b>10,270</b>	<b>11,490</b>	<b>1,220</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>10,270</b>	<b>11,490</b>	<b>1,220</b>

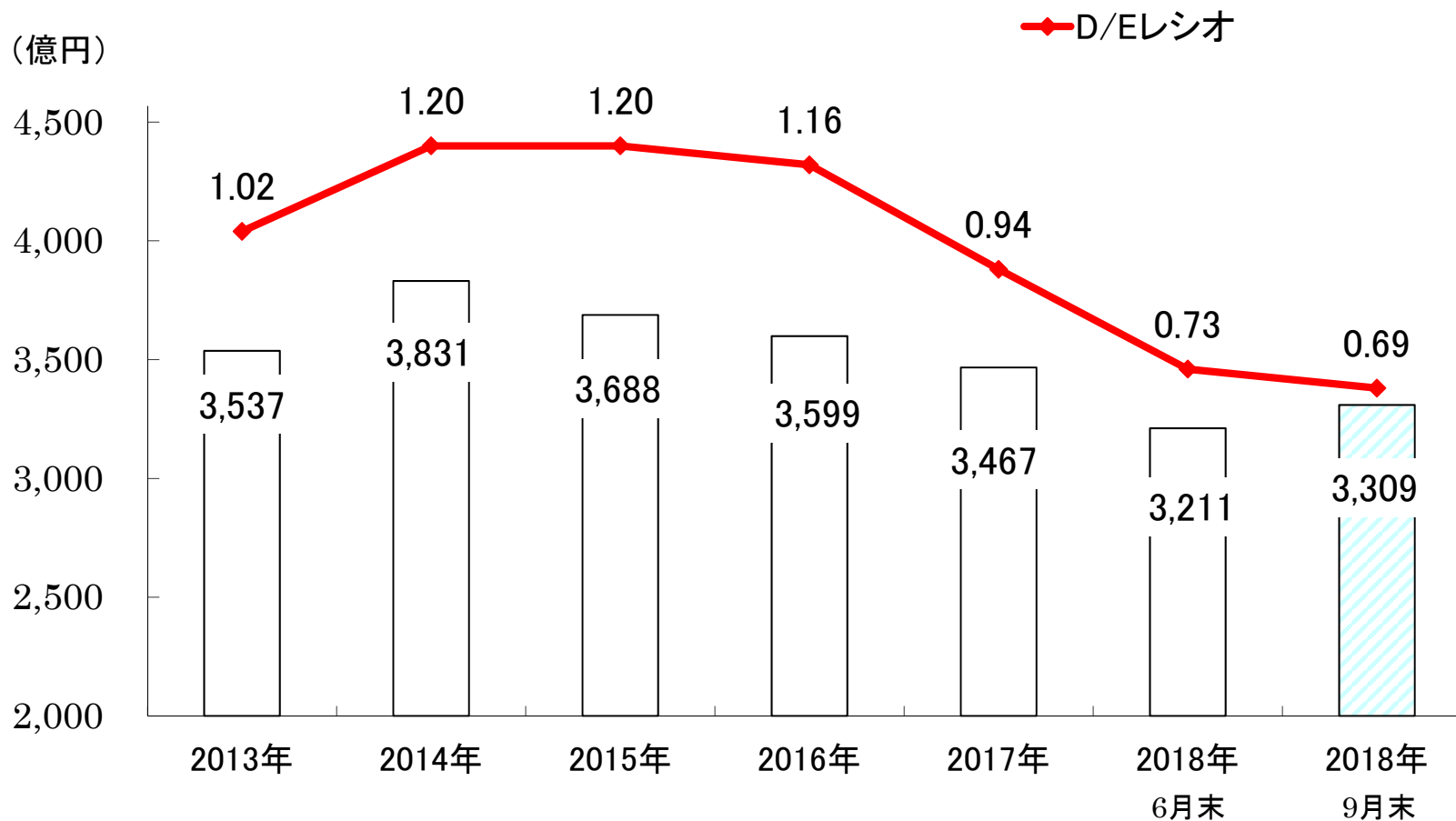
(注)2017年12月期において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、2017年12月期の数値を遡及修正した金額に変更しております。  
昭和電工(株)2018年第3四半期決算説明資料

## 総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

	2017年12月末	2018年9月末	増減
■ 総資産	10,270億円	11,490億円	1,220億円
■ 有利子負債	3,467億円	3,309億円	△159億円
■ D/Eレシオ	0.94倍	0.69倍	0.25p減
■ 自己資本比率	34.3%	40.3%	6.0p増

(注)2017年12月期において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、2017年12月期の数値を遡及修正した金額に変更しております。

# 連結有利子負債等の推移



自己資本比率	30.6%	29.7%	31.5%	31.8%	34.3%	39.9%	40.3%
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

(注)2017年12月期において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、2017年12月期の数値を遡及修正した金額に変更しております。

## (ご参考) 連結業績の概要(2Q、3Q対比)

(億円)

	2018年4-6月	2018年7-9月	増減
売上高	2,412	2,691	279
営業利益	436	566	130
営業外損益	13	△0	△13
金融収支	△2	△3	△1
持分法損益	0	4	3
為替差損益	19	7	△13
その他	△5	△8	△3
経常利益	449	566	117
特別利益	5	0	△5
特別損失	△11	△11	1
税金等調整前四半期純利益	443	556	113
法人税等	△95	△127	△32
四半期純利益	348	429	81
非支配株主に帰属する四半期純利益	△15	△16	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益	333	413	80

(注)2017年12月期において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、当期の償却費等の金額が変更となり遡及修正した金額に変更しております。

## (ご参考) 連結売上高差異内訳(2Q、3Q対比)

(億円)

	2018年 4-6月	2018年 7-9月	増減	項目
石油化学	616	762	146	オレフィン:増収(定修差による数量増) 有機:増収(酢ビ・酢エチ:数量増) サンアロマー:小幅増収
化学品	386	405	19	産業ガス:増収(数量増:季節性) 情報電子化学品:小幅増収 基礎化学品・機能性化学品:前四半期並み
エレクトロ ニクス	266	271	5	HD:増収(数量増) 化合物半導体・レアアース:減収(数量減) リチウムイオン電池材料:小幅減収
無機	650	757	106	セラミックス:前四半期並み 電極:増収(市況上昇)
アルミニウム	284	278	△7	圧延品・アルミ缶:前四半期並み 機能部材:減収(数量減)
その他	353	360	7	昭光通商:増収 SiCエピウエハー:増収(数量増)
調整額	△145	△141	4	
合計	2,412	2,691	279	

## (ご参考) 連結営業利益差異内訳(2Q、3Q対比)

(億円)

	2018年 4-6月	2018年 7-9月	増減	項目
石油化学	41	81	40	オレフィン:増益(定修差による数量増) 有機:増益(酢ビ・酢エチ:数量増) サンアロマー:小幅減益(原料高による販売価格上昇のタイムラグ)
化学品	41	49	7	産業ガス:増益(数量増:季節性) 情報電子化学品:増益(電子材料用高純度ガス:数量増) 基礎化学品:小幅減益 機能性化学品:増益
エレクトロ ニクス	28	45	17	HD:増益(数量増) 化合物半導体:小幅減益、レアアース:小幅増益 リチウムイオン電池材料:前四半期並み
無機	333	398	64	セラミックス:小幅増益(電子材料向け数量増) 電極:増益(市況上昇)
アルミニウム	14	14	0	圧延品、アルミ缶:前四半期並み 機能部材:小幅減益
その他	5	8	3	昭光通商:前四半期並み SiCエピウエハー:増益
調整額	△25	△27	△2	
合計	436	566	130	

(注)2017年12月期において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、当期の償却費等の金額が変更となり遡及修正した金額に変更しております。



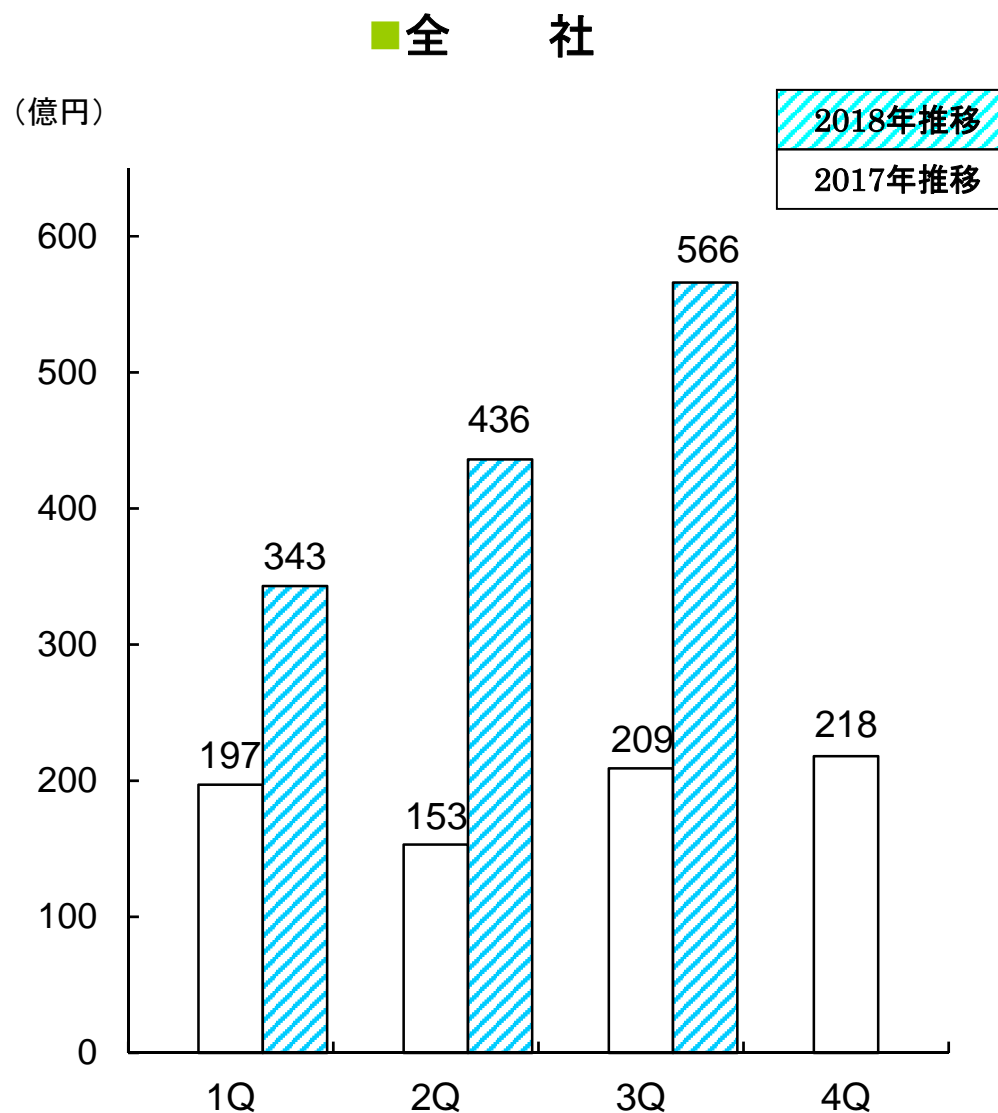
## (ご参考)2018年業績推移

(億円)

	1-3月	4-6月	7-9月	1-9月	通期予想 (8月8日公表)
売上高	2,147	2,412	2,691	7,249	9,850
営業利益	343	436	566	1,345	1,700
経常利益	327	449	566	1,342	1,670
親会社株主に帰属 する四半期純利益	247	333	413	993	1,150

(注)2017年12月期において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、当期の償却費等の金額が変更となり遡及修正した金額に変更しております。

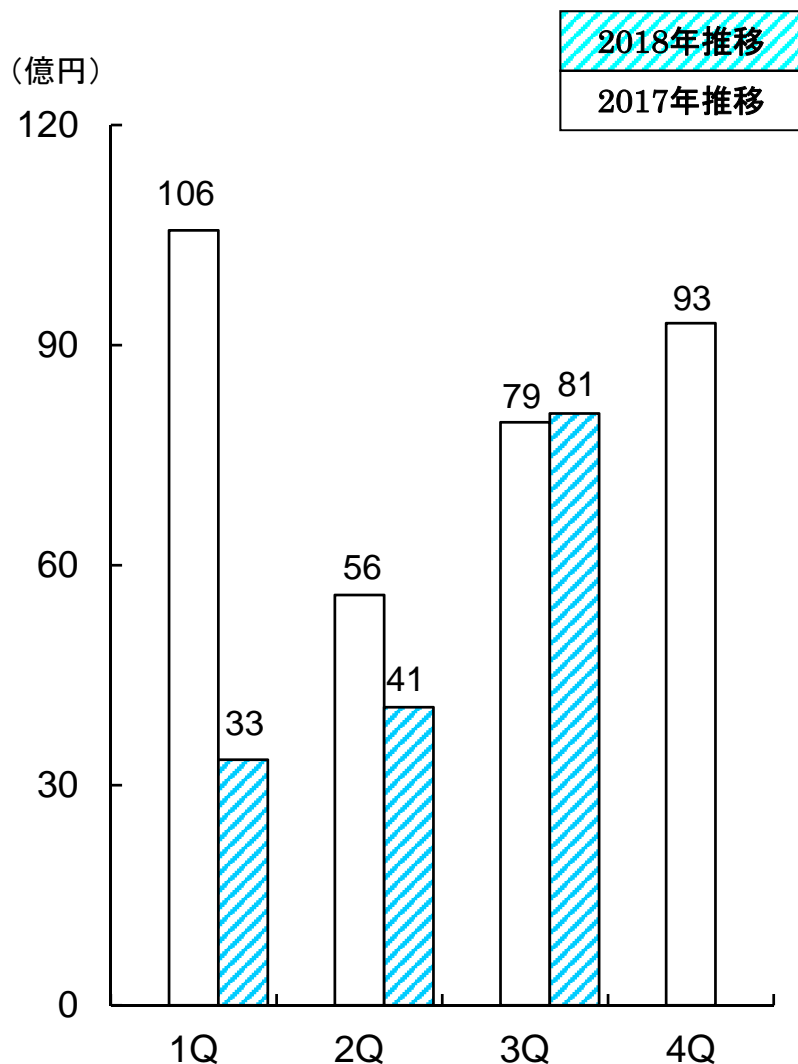
# (ご参考) 四半期別連結営業利益推移



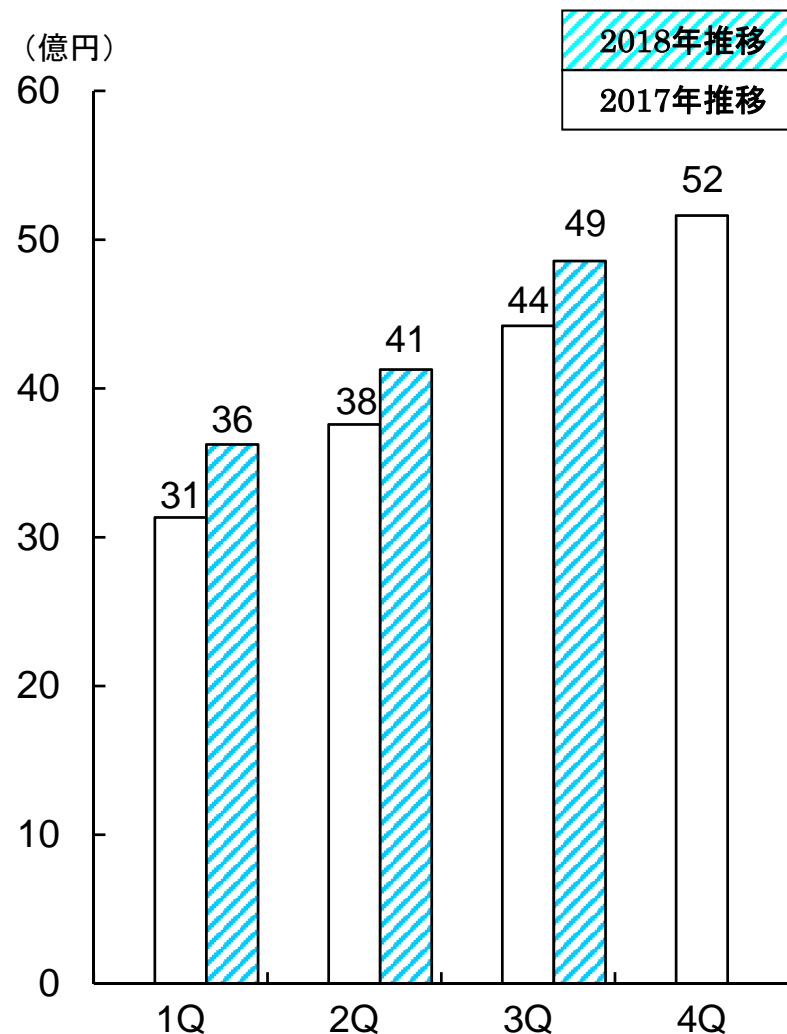
(注)2017年12月期において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、当期の償却費等の金額が変更となり遡及修正した金額に変更しております。

# (ご参考)セグメント別営業利益推移

## ■石油化学セグメント



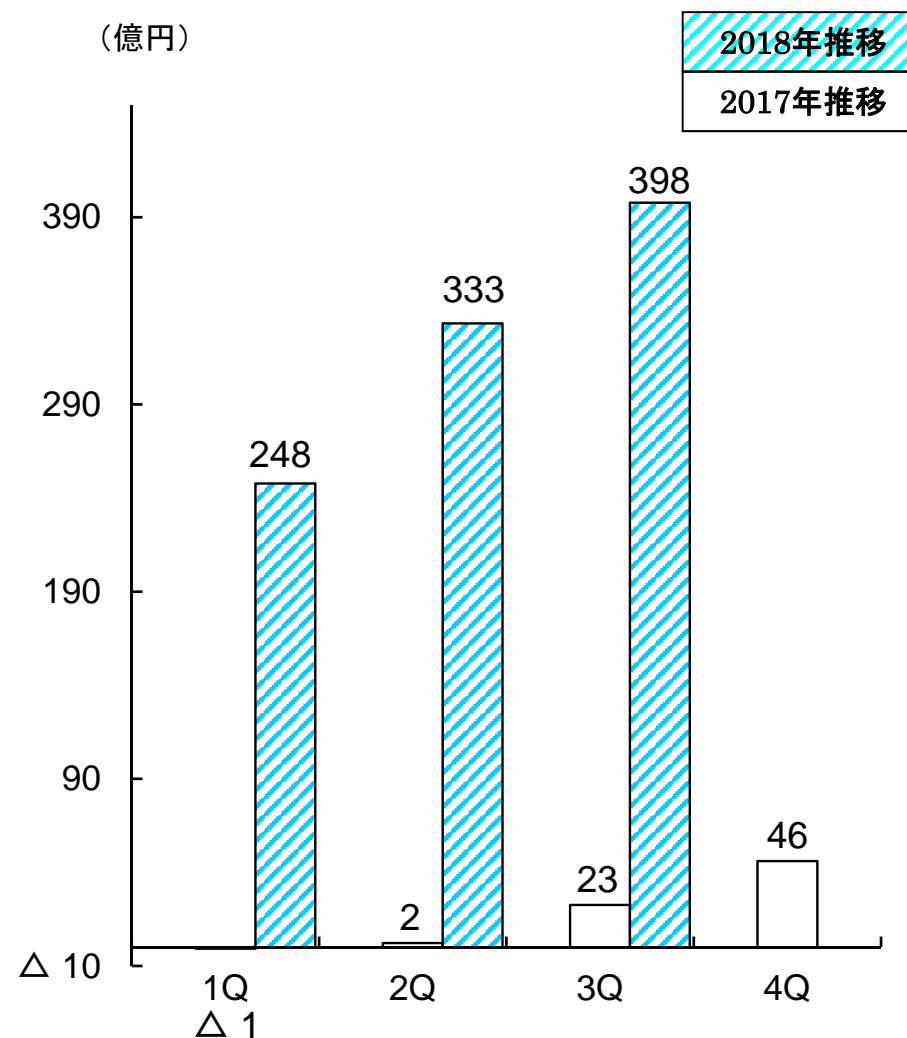
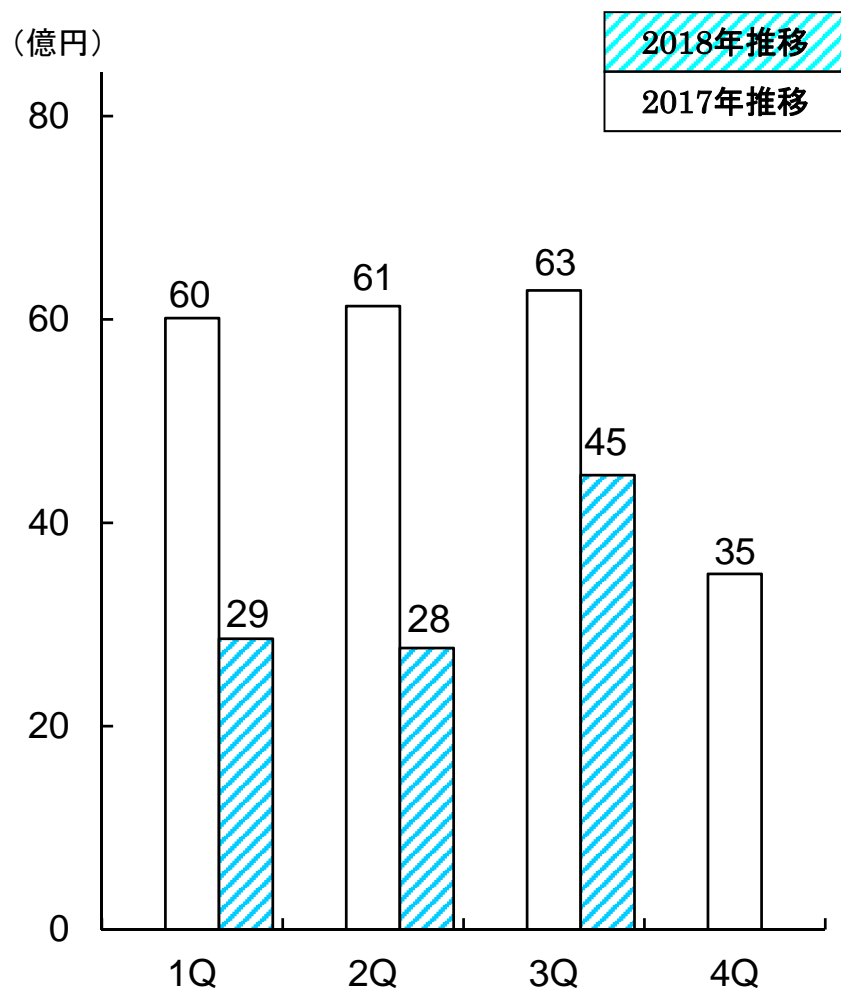
## ■化学品セグメント



# (ご参考)セグメント別営業利益推移

## ■エレクトロニクスセグメント

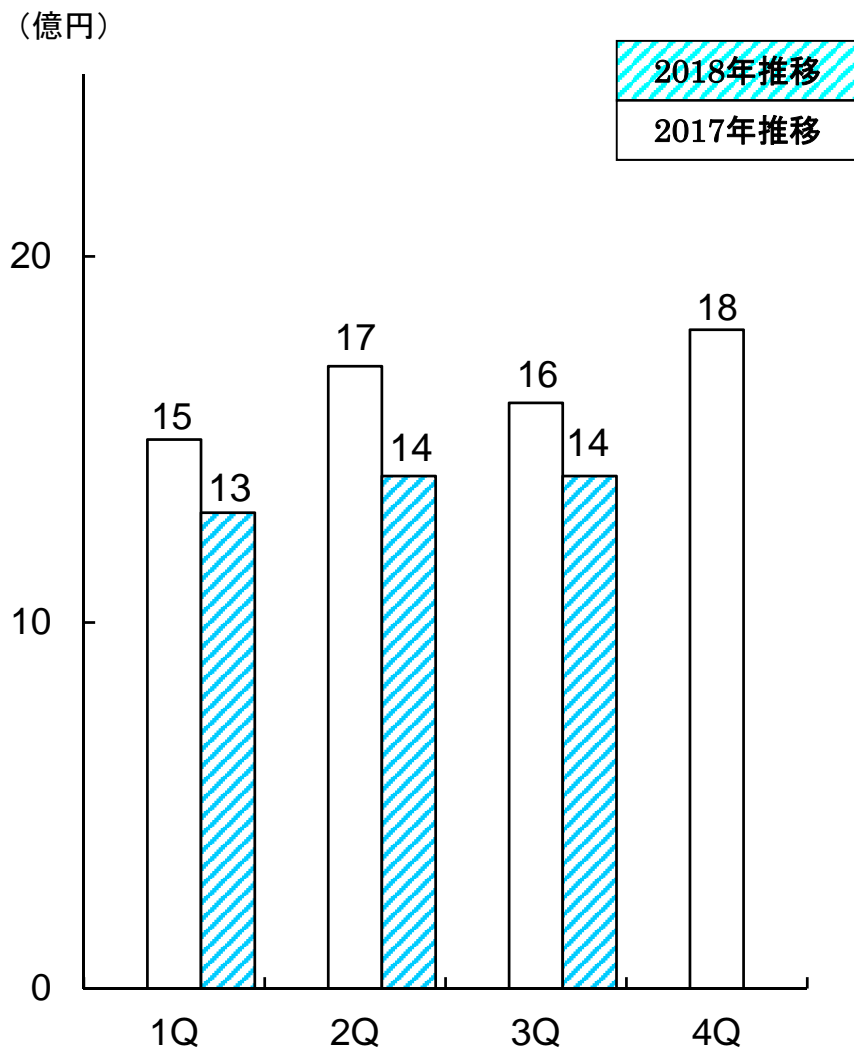
## ■無機セグメント



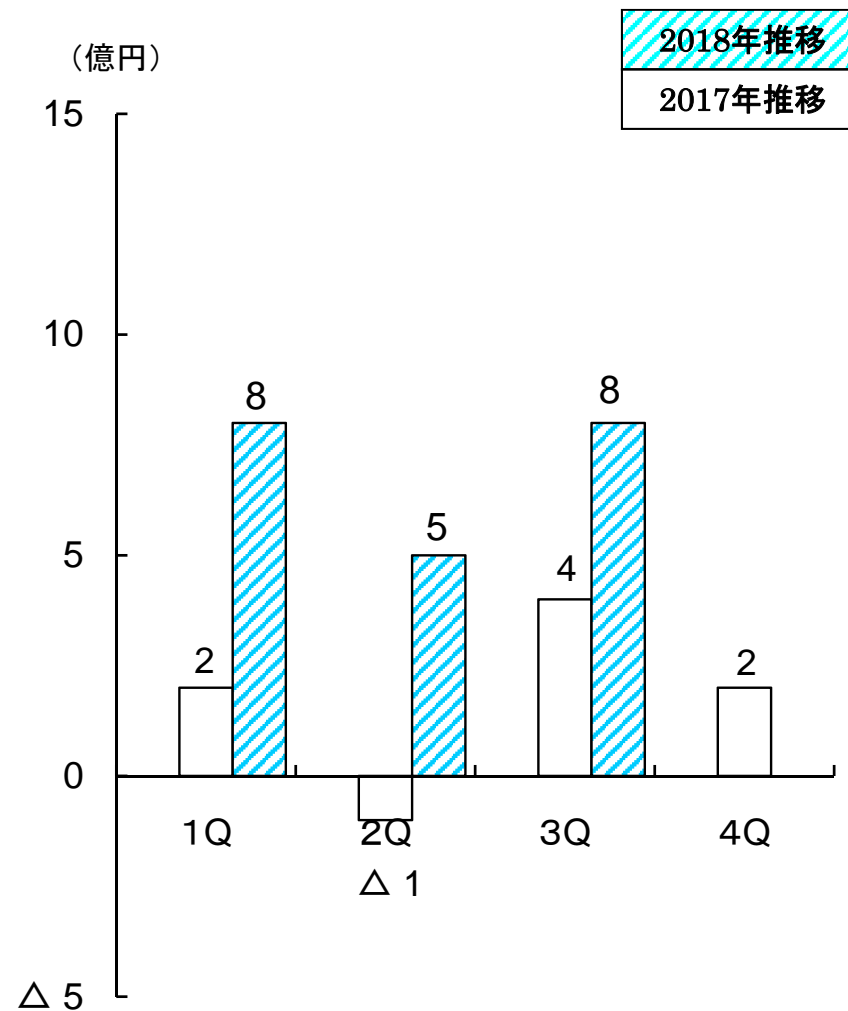
(注)2017年12月期において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、当期の償却費等の金額が変更となり遡及修正した金額に変更しております。

# (ご参考)セグメント別営業利益推移

■アルミニウムセグメント



■その他セグメント



# セグメント別トピックス

## (第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

### 【全社施策】

#### ● ESG投資のための3指数に2年連続採用

本年7月、世界的なインデックスプロバイダーであるFTSE Russell社<sup>(注)</sup>のESG投資指数「FTSE Blossom Japan Index」および同MSCI社の「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」「MSCI日本株女性活躍指数」の構成銘柄に、2年連続で採用された。

年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)はこの3つのESG投資指数を選定し、本格的なESG投資を開始している。

FTSE Blossom Japan Indexは、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を実践している日本企業のパフォーマンスを評価している。また、MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数は、MSCIジャパンIMIトップ500指数(親指数)構成銘柄の中からESG評価の高い銘柄を選定し、MSCI日本株女性活躍指数は、性別多様性に優れた企業を評価している。

今回採用された投資指数以外にも社会的責任投資ファンド「モーニングスター社会的責任投資株価指数」(モーニングスター社運営)に5年連続で、また「SNAMサステナビリティ・インデックス」(損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント(株)運用)にも7年連続で選定されている。

(注)フィッツィー・ラッセル:ロンドン証券取引所グループに所属する世界的なインデックスプロバイダー

#### ● 劣後特約付ローンの期限前弁済を実施

本年10月、2014年4月に資金調達した総額240億円の劣後特約付ローンについて期限前弁済を行った。

本劣後特約付ローンは、(株)日本格付研究所より75%の資本性が認められるなど、財務体質の改善に寄与してきたが、資金調達以降、構造改革の進展と個性派事業群の規模拡大により事業基盤の強化と収益力の改善が進み、中期経営計画において目標としていた財務水準が達成されたことから、財務体質の強化という大きな役割を終えたと考えた。また、期限前弁済により、金融コストを削減するとともに財務戦略の柔軟性が高まり、ひいては株主価値の向上につながるものと判断し、期限前弁済を実施した。

# セグメント別トピックス

## 【全社施策】

### ● 人工知能(AI)を用いた技術文書活用システムの共同開発を開始

本年7月に(株)シナモンと、AIを活用した技術文書活用システムを共同で開発することを決定した。両社は、手書き文字を含む技術文書をAIを活用し高精度で自動で読み取りし電子テキスト化する機能と、利便性の高い検索機能を併せ持つ、技術文書活用を目的としたデータベースシステムの開発に取り組む。

AIと画像解析の双方に関する深い知見と高度なプログラミング技術を有する(株)シナモンと、石油化学、カーボン、アルミニウム製品など多岐にわたる分野で豊富なリアルデータ(技術文書)を保有する当社が密に協力・連携して開発を進めることで、実用性の高いシステムの創出を目指す。なお、本共同開発は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「AIシステム共同開発支援事業」の助成事業に採択されている。

### ● 大分スポーツ公園内施設のネーミングライツを取得

本年10月、大分スポーツ公園(大分市)内施設のネーミングライツ(命名権)を大分県より取得した。期間は2019年3月1日から2024年2月29日までの5年間で、総合競技場の愛称を「昭和電工ドーム大分」とする他、テニスコートや野球場を含む7施設に当社名を付与する。

1969年に大分石油化学コンビナートのエチレン設備の操業を開始して以来50年もの長きに亘り、地域社会との共存共栄を図ってきた。大分スポーツ公園は同県を代表する施設で、サッカーJリーグや各種スポーツ大会等に広く活用されている。今回の命名権料の一部が地域貢献・スポーツ振興事業に充当されることを通じ、同県のスポーツ振興への寄与と地域社会への貢献を果たし、CSR活動のさらなる向上を図っていく。

## セグメント別トピックス

### 【石油化学セグメント】

- 大分コンビナート地区における石油コンビナートの立地基盤整備支援事業を実施

JXTGエネルギー(株)と、大分コンビナート地区(大分市)におけるコンビナート連携強化策を、石油供給構造高度化事業コンソーシアムが公募している「2018年度石油供給構造高度化事業費補助金(石油コンビナートの生産性向上及び強じん化推進事業のうち石油コンビナートの立地基盤整備支援事業)に係る補助事業」に応募し、本年7月に採択された。

対象となる事業内容は「プロピレン精留塔の増強」と「エタンホルダーの新設」で、パイプラインを通じた製造物の相互利用等により両社がメリットを享受する。

「石油供給構造高度化事業費補助金」は、資源エネルギー庁が石油製品供給の中核をなす日本の石油コンビナートの生産性の向上により、国内の石油供給網の維持に必要な経営基盤を確保し、石油を持続的に安定供給しうる体制の整備を目的に制度化したもの。

両社は、本事業を通じて、大分コンビナート地区の石油精製および石油化学等の設備の強みを活かし、国際競争力を有するコンビナートへの発展を目指していく。



## 【その他セグメント】

### ●パワー半導体SiCエピウェハー高品質グレードの3次増強を決定

パワー半導体用炭化ケイ素エピタキシャルウェハー（SiCエピウェハー）の高品質グレード「ハイグレードエピ（HGE）」について、追加増強を決定した。昨年時点の月産3,000枚の生産能力について段階的に増強を進めているが、今回の追加増強により2019年2月には増強前の3倍となる同9,000枚に引き上げる予定。<sup>（注）</sup>

SiCエピウェハー事業は、欠陥密度の低さと均一性の高さより好評価を得ている。SiCパワー半導体市場の急成長に伴うお客様からの旺盛な需要にお応えすべく追加増強を決定した。

SiCパワー半導体は、現在主流のSi（シリコン）製に比べ耐高温・耐電圧・大電流特性に優れた半導体で、電力制御に用いるモジュールの軽量・小型化と省エネルギー化に貢献することから、次世代パワー半導体として注目されている。

新エネルギーの分散型電源やデータセンターのサーバー用電源、鉄道車両のインバータモジュールに加え、急速に伸長する電気自動車市場においても、車載充電器や急速充電スタンドでSiCパワー半導体への切り替えが進んでいる。

引き続きSiCエピウェハーにおけるトップレベルのシェアと品質のさらなる向上に取り組み、需要の高まるSiCパワー半導体市場へタイムリーで安定的な製品供給に努めていく。

（注）1200V耐圧用デバイス仕様での換算。

# PROJECT 2020+

